

物理化学教科担当教員会議

日時：令和5年3月26日（日）12：30～13：20

場所：北海道大学 薬学研究院 多目的講義室2（PS4会場）

議題進行目録

物理化学系教員会議世話人の挨拶（北大薬 前仲勝実）

- 1) 講演：平田 収正 先生（和歌山県立医科大学薬学部）
薬剤師に求められる資質・能力の育成に向けたカリキュラムの在り方
- 2) アンケートの集計結果紹介 （前仲勝実）
- 3) 今年度シンポジウム開催について
 - ・加藤博章先生（京大薬）
日本薬学会物理系薬学部会総会(3月27日)と部会主催シンポジウム
 - ・山田健一先生（九大薬）
第44回 生体膜と薬物の相互作用シンポジウム
- 4) その他 メーリングリストについて

次年会教員会議の世話人のご挨拶（星薬大薬 米持悦生先生）

各議題での報告等

物理化学系教員会議世話人の挨拶（北大薬 前仲勝実）

1) 講演：平田 收正 先生（和歌山県立医科大学薬学部）

文部省からの委託研究である医学、歯学、薬学、看護のコアカリ策定・改定の変遷、および薬学教育モデル・コア・カリキュラム改定についての作成経緯・意義の説明があった。

今回の改定は、「変化し続ける未来の社会や地域を見据え、多様な場や人をつなぎ活躍できる医療人の養成」を目指して、キャッチフレーズ「医・歯・薬で共通化＝医療人として価値観を共有」を掲げ、医学・歯学・薬学教育の3領域で統一的に取りまとめた。

【学教育モデル・コア・カリキュラム改定に向けた基本方針】

1. 大きく変貌する社会で活躍できる薬剤師を想定した教育内容の検討
2. **生涯にわたって目標とする「薬剤師として求められる基本的な資質・能力」を提示した新たなモデル・コア・カリキュラムの展開**
3. **各大学の責任あるカリキュラム運用のための自由度の向上**
4. **臨床薬学という教育体制の構築**
5. 課題の発見と解決を科学的に探究する人材育成の視点
6. 医学・歯学教育モデル・コア・カリキュラムとの一部共通化

- ・ これまでは、「薬剤師として求められる基本的資質」を掲げた学修成果基盤型教育と GIO-SBOs（平成25年度改訂版で網羅的に記載されていた一般目標及び到達目標）を提示したプロセス基盤型教育の構成が混在していたが、生涯にわたる学修成果基盤型教育の新展開を行う。
- ・ 詳細な SBOs を廃して学習すべき内容をコアとし、各大学の理念やディプロマシーに基づき責任を持った教育が可能となるように、大学のカリキュラム作成における自由度を高める。
- ・ GIO-SBOs を概念化した学修目標に改め、**多くの具体的事実を覚えるだけでなく、それらに共通する特徴や相違点を考え、概念化したうえで新たに直面する課題や問題点の解決に活かせる総合的な学力を身に着けられるようにした。**

- ・年次から、疾病の予防や個々の患者の状況に適した責任ある薬物療法が実践できる薬剤師の養成を目指し、大学と医療現場が連携して教育を行う「臨床薬学」という教育体制の構築を行った。

【教学マネジメント指針】令和2年1月22日・中央教育審議会大学分科会

- ◆大学がその教育目的を達成するために行う管理運営であり、**大学の内部質保障の確立にも密接に関わる重要な営み**である。
- ◆教学マネジメントの確立に当たっては、教育活動に用いることができる学内の資源（人員や施設等）や学生の時間は有限であるという視点や、**学修者本位の教育の実現**のためには大学の時間構造を「供給者目線」から「学修者目線」へ**転換する**という視点が特に重視される。
- ◆ただし、各大学が自らの理念を踏まえ、その責任でそれぞれの実情に応じて構築すべきものであり、本指針は「マニュアル」ではない。

- ・学修者本位の教育とは、**学生が、大学のミッション（使命）に基づいて（何を教えたかではなく）「何を学び、（何を考え）身に付けることができるのか」**を明確にし、**学修の成果を実感できる教育**である。
- ➡**学生自身が目標を明確に意識しつつ主体的に学習に取り組むこと、その成果を自ら適切に評価し、さらに必要な学びに踏み出していく自律的な学習者となる**ことが求められる。

2) アンケートの集計結果紹介

前仲先生から説明があった。

3) 今年度シンポジウム開催について

- ・加藤博章先生（京大薬）

2023年度および2024年度の物理系薬学部会長である加藤先生から、2023年3月27日(月)に北海道大学で開催される日本薬学会物理系薬学部会総会および部会主催シンポジウムの説明があった。

- ・山田健一先生（九大薬）

山田先生から、2023年10月19日(木)～20日(金)に九州大学病院キャンパスで開催される第44回 生体膜と薬物の相互作用シンポジウムの説明があ

った。

4) その他

- ・メーリングリストについて

名簿上は 2 名までの記載となっており、完全なメーリングリストが出来上がっていない。本来の担当の先生に連絡が行き渡るよう、教員会議への呼びかけ等の際には注意が必要である。

次年会教員会議の世話人のご挨拶（星薬大薬 米持悦生先生）

2024年3月28日(木)～31日(日)にパシフィコ横浜で開催される日本薬学会第144年会について、お知らせがあった。多くの参加の呼びかけがあった。

会議の準備について

- ・お弁当・ペットボトルお茶 60人分

※日本薬学会第143年会事務局にて手配

1000円/人、札幌弁当工房 中央店（北海道札幌市中央区南 20 条西 10-4-11、011-533-9595）

- ・配布資料

改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムについて（令和4年度物理化学教科担当教員会議_配布資料.pdf）

- ・スタッフ

Pablo Adrian Guillen Poza、陳 鏐安、吉川 嘉一郎（北大薬学）

- ・当日に準備したもの

Windows マシン（前仲先生の説明に利用、DHCP 接続でネットワーク利用可）

Mac Book Air（前仲先生の説明に利用）

ポインター（予備）

USB メモリー（予備）